

## 長岡市長記者会見要旨

日 時：令和3年7月5日（月）午後4時から

会 場：アオーレ長岡東棟4階 大会議室

【会見項目：新型コロナウイルスワクチン

64歳以下の方の接種の予約受付を一時停止します】

（市長）

64歳以下の方の新型コロナウイルスワクチン接種の予約受付を一時停止します。

長岡市は、64歳以下の方への接種について、7月1日から個別接種を順次開始しており、集団接種についても7月17日以降、予約受付を順次開始することで、すでに市政だよりや市ホームページ等で周知しているところです。

しかし、8月の接種に必要となるワクチン約5万2,000回分に対して、供給量は約3分の1の1万8,720回分にとどまり、3万3,280回分の不足が見込まれることから、64歳以下の方の予約受付を一時停止します。

個別接種については、明日7月6日以降、当面の間、新規の予約受付を停止します。

集団接種については、7月17日以降、順次開始予定だった64歳以下の方を対象とした予約受付を延期します。

現時点で予約再開の見込みは立っていません。今後のワクチン供給量を見極めながら医師会や医療機関と連携して、再開時期などを決定し次第、市民の皆様にお知らせします。

なお、65歳以上の高齢者の方で予約済みの方は、2回目の接種を含めて予定どおり接種を行います。

これまで関係者の皆様の尽力により接種体制を整えてきましたが、このような事態になり市民の皆様、関係者の皆様に大変申し訳なく思っております。今後も希望される方に、いち早く接種していただけるように努めてまいります。

（記者）

国からワクチン接種計画の前倒しによる早期完了を求められていた中で、市が万全の体制を整えたところ、今度はワクチンの供給が不足するという事態について、市長はどのように受けとめていますか。

（市長）

64歳以下の方への接種を遅くとも11月末までに、できれば1カ月以上の前倒しを目指して医療関係者の皆様にも無理を言いながら組んだ接種体制です。ワクチンの供給が足りないことについては、本当にどうなっているんだという思いが強く、とても残念です。

全国民分が確保されているものと理解していますので、どこかにワクチンが滞留しているのであれば、国はそれをほぐして接種体制が整っている自治体に早急に回してほしいと思います。

(記者)

8月分のワクチン供給が不足するということですが、7月分については問題なく供給されるのでしょうか。

(市長)

はい。7月の接種については、個別接種をすでに予約した64歳以下の方の分を含めて足りる見込みです。なお、8月に供給される1万8,720回分については、予約済みの方と高齢者の方の接種に充てたいと考えています。

(記者)

ワクチンの供給が不足することは、いつの段階で判明したのですか。

(市長)

先週金曜日の7月2日に、要求した量の3分の1しか供給されないことが判明し、今後の予約が受け付けられないという判断に至り、本日の発表になりました。

これまで国からは、早く接種を完了するように求められてきており、市もそれに向けて可能な限り早く接種するよう頑張ってきました。もう少し早い段階で供給が不足する見込みが示されていれば、市としても緩やかな接種計画を考えることができました。

(記者)

市の要望に対する供給が不足することについて、国や県から説明はありましたか。

(市長)

これからあるものと思っています。

(記者)

11月末までに希望する全市民のワクチン接種を完了するという計画について、後ろ倒しになる想定でしょうか。

(市長)

今後も供給量が不足する状態が続くようであれば後ろ倒しになると思います。

現在、長岡市では医師会や基幹3病院を含めた医療関係者の皆様の全面的な協力により、これ以上スピードを上げられないくらいの体制をとっていますので、ワクチンの供給さえあれば

11月末までと言わず、もっと前倒しすることは可能です。

(記者)

長岡市に設置する県の大規模接種センターでの接種が7月17日に始まりますが、今回予約を一時停止した分をそちらに回すなどの対策は考えていますか。

(市長)

県の大規模接種センターについては、予定どおり高齢者の方でまだ予約していない方や基礎疾患がある方などに利用いただきたいと思っています。

(記者)

8月に必要となる約5万2,000回分は、いつごろ要望したのですか。

(新型コロナウイルスワクチン接種事業担当部長)

6月25日に、県を通じて必要量の調査があり、その日に要望しました。

#### 【その他の項目】

(記者)

静岡県で大規模な土石流が発生しましたが、今般の大雨による市内での災害発生はありましたか。

(危機管理防災担当課長)

現時点で災害発生の情報はありません。

今後の気象情報を踏まえ、現在、県の河川防災情報システムや土砂災害警戒情報システムなどで状況をモニタリングしながら警戒を続けています。